

表1 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ報告  
より発達障害に関する合理的配慮等の例示より抜粋

2017. 11. 22(水)  
スズル 高倉

| 項目 障害  | 自閉症・情緒障害  | 4の2                                    | 注意欠陥多動性障害   | 4の1   |
|--|---|--|---|---|
| (1) - 1 - 1<br>学習上又は生活上の困難改善・克服の配慮                   | 動作等を利用して意味を理解する、繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚える等。  | ・手順のくりかえし<br>・道具(コンパス等)の使い方の練習         | 自分を客観視する、物品の管理方法の工夫、メモの使用等。   | ・動線の単純化<br>・空間の構造の工夫                            |
| (1) - 1 - 2<br>学習内容の変更・調整                            | 理解の程度を考慮した基礎的・基本的な内容の確実な習得、社会適応に必要な技術や態度を身に付けること等。                              | ・数とばの基礎的内容の定着。<br>(苦手な内容を少く)           | 学習内容を分割して適切な量にする等。  | ・集中できる量、流れ、メリハリ、リズム<br>(ワクワク、ドキドキ)              |
| (1) - 2 - 1<br>情報・コミュニケーション及び教材の配慮                   | 写真や図面、模型、実物等の活用。扱いやすい道具を用意。補助具を効果的に利用。  | ・視覚的提示<br>・パターン化した質問のしかた、対話、手順。        | 掲示物の整理整頓・精選、目を合わせての指示、メモ等の視覚情報の活用、静かで集中できる環境づくり等。   | ・指示を少く<br>(言語)<br>・注意しない(視覚)<br>・刺激量の調節         |
| (1) - 2 - 2<br>学習機会や体験の確保                            | 実際の体験の機会を多くする。学習活動の順序を分かりやすくなるよう活動予定表等の活用。                                      | ・予習的<br>・一歩者に体験させる。                    | 好きなものと関連付けるなど興味・関心が持てるような導入の工夫。危険防止策を講じた上で本人が直接参加できる体験学習。                                     | ・身体で覚える<br>・具体的動作性課題<br>・教材の「遠近」                |
| (1) - 2 - 3<br>心理面・健康面の配慮                            | 情緒不安や不登校、ひきこもり、自尊感情や自己肯定感の低下等に応じた指導を行う。(カウンセリング的対応や医師の診断を踏まえた対応等)二次的な障害の予防に努める。 | ・できたことのみ評価<br>・他者評価                    | 十分な活動のための時間の確保、物品管理のための棚等の準備、良い面を認め合えるような受容的な学級の雰囲気作り、感情のコントロール方法の指導、困ったときに相談できる人や場所の確保等。     | ・スマイル (スマイル)<br>・ルールへの徹底<br>・努力の「見える化」<br>・競争原理 |
| (2) - 3<br>災害時等の支援体制の整備                              | 極度に混乱した心理状態やパニックを想定した支援体制の整備。   | ・音刺激への耐性                               | 項目を絞った短時間の避難指示、行動を過度に規制しない見守りやパニックの予防等。   | ・くりかえし訓練<br>・集団ルールの徹底                           |
| (3) - 2<br>安全性を確保した校内発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 | 安全性を確保した校内環境を整備。クールダウン等のための場所を確保。必要に応じて、自閉症特有の感覚(明るさやちらつきへの過敏性等)を踏まえた校内環境を整備。   | ・音、光の耐性<br>・自立的な動線<br>・クールダウンのやり方(自分で) | 注意集中の困難、衝動的な行動、落ち着きを取り戻す場所が必要なこと等を考慮した施設・設備。(余分なものを覆うカーテン、照明器具等の防護対策、危険な場所等の危険防止柵、静かな小部屋の設置等) | ・美しい学習環境(整理整頓)<br>・静かな空間、ムクムク活動                 |

学習環境をととのえる  
配慮点

- ① 場の構造化
- ② 刺激量の調整  
(空間、人、もの、課題)
- ③ ルールの明確化  
(個々のグループへのクラス)
- ④ 子ども同士の相互関係  
特性をいかした競争
- ⑤ 方略を身につけさせる工夫  
→ (わかるとい  
うくらいかた) こと  
解放するやり方をさかす  
練習する  
身につける  
ふりかえり

わかるとい  
うくらいかた  
ムクムク  
活動